

2 学力向上アクションプラン

横浜市立日野南中学校

平成29年度 学力向上アクションプラン

1. 中期学校経営方針

(1) 学校経営中期取組目標

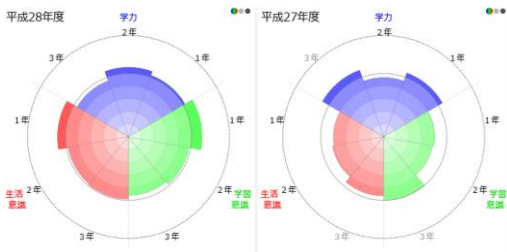
学校経営中期取組目標
○「チーム日野南」として全職員で魅力ある学校づくりを目指します。 ・新たな学習指導要領を見据えて、本校の状況に合わせたカリキュラム編成を進めます。 ・小中一貫教育を推進し、9年間を見通したカリキュラムの構築を目指します。 ・アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた主体的・能動的な学習活動の展開する指導に取り組みます。 ・認め合い、支え合って互いに高めあう子どもの育成を目指した人権教育を展開します。 ・地域との協働事業を通して、コミュニケーション力を高め、地域社会に貢献できる生徒を育てます。

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力 (学習指導)	「魅力ある授業」を合言葉に、「個に応じた指導」の充実と、「アクティブ・ラーニング」の視点を取り入れた学習活動が展開するよう授業改善に努めます。	校内授業研や小中一貫教育推進ブロック授業研で積極的に授業公開し「わかる授業」を目指します。数学・英語・保健体育においてTTの指導を取り入れます。アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた主体的・能動的な学習活動を展開するよう努めます。後期前に生徒による授業評価を実施し集計結果をもとに魅力ある授業に向けて授業改善を行います。
担当	学力向上・研修	

2. 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析



学力では現2・3学年とも市の平均を上回る結果となり特に3年生は大きく上回る結果である。生活意識も平均かそれを上回る結果となり、充実した学校生活に繋がっていると思われる。学習意識は2・3年生とも教科によってやや差はあるものの「好き」「大切」と感じている生徒が多く、特に英語、保健体育の教科ではそれが顕著に現れている。しかし、学年や教科による学力差や意識差がやや見られるため、全教職員の共通理解のもと、本校のカリキュラムの実践が望まれる。

(2) 教科学習の状況

国語：どの学年も基礎基本の定着が見られますが、「読む能力」や「言語についての知識・理解・技能」の力においては、さらに個々の力を伸ばすための工夫が必要であると考えられます。基礎的な学習を繰り返し行うほかに、日頃から、さまざまな文章に触れたり、覚えた言葉を生活の中に取り入れたりすることを授業の中でも実践していきたいと考えています。

社会：どの学年も社会科の学習に対する意識は大幅に高まり、基礎基本は定着しつつあります。一方、資料を見て考えたり、文章に表現したりすることについて課題が残ります。授業の中でも、自分の考えを発言したり文章に表したりする表現活動を、積極的に取り入れていきます。

数学：7割以上の生徒が数学の授業は分かると答えているが、学力層の分布は、どの学年においてもほぼ同程度に分布しており、特に大きなかたよりはありませぬ。また、6割前後の生徒が、数学科の勉強が好きだと答えています。見方や考え方に関する問題の正答率は改善されつつありますが、さらなる改善が望まれます。また、数学的な技能に関する問題の正答率が、今一つ伸び悩んでいます。TT等を活用した、個の学力に応じた指導・助言の充実が課題と考えています。

理科：どの学年でも基礎・基本が定着してきて、実験・観察の技能が高くなっているが、活用や思考・表現においては学年によって到達度に若干差があります。自ら探究し考える力を育てていくことが課題です。学習意識においては授

業への取組や意欲は高いものがあり、さらに学習意欲を高めるために授業実践の工夫が必要と考えています。

英語：どの学年も基礎・基本が定着してきて、「聞く力」、「読む力」が高くなってきているが、表現力はどの学年も低迷しており、一人ひとりにおける力の差が大きいと感じます。積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒が増えているので、恥ずかしがらずに英語を話す授業実践の工夫が必要であり、日常で活用できる英語力を身につける言語活動を充実させていきます。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めての分析）

横浜市学力学習状況調査を昨年の結果と比べてみて、現3年生は、どの教科の観点も市の平均を上回り、伸びがみられるため、さらに向上が期待できる。現2年生は、国語・数学・英語は、どの観点も市の平均を上回るが、社会の思考判断、理科の科学的な思考表現はやや下回る結果となった。「授業が分かる、どちらかと言えば分かる」と回答する生徒は昨年と同程度でやや多いが、「好きだ、どちらかと言えば好きである」と回答する生徒がやや少ないと思われる。指導の成果が少しずつ表れてはいるが、よりアクティブな授業、魅力ある授業の展開に力を入れたい。塾に行く生徒については現3年生では75%を超えるが、現2年生では60%ほどである、という実態があり昨年度とあまり変わっていない。読書量は昨年より、学年が上がるにつれて本に親しむ割合が増えている。運動量は、昨年同様、市の平均を上回り、90%の生徒が、短い時間でも体を動かしていることがわかる。学年によって生活意識の差があることなども本校の特徴が表れている部分であると言える。

授業における言語活動の充実は大切な要素であり、教室の中に「学び合い」があり、学習内容が日常生活と結びつく授業展開が必要であると考えている。

3. 平成29年度 学年・教科等としての具体的取組

<p>国語</p> <ul style="list-style-type: none"> ○言語に関する小テストなどを行い、計画的に反復学習させることで、基礎的・基本的な学力を養う。 ○生徒同士の意見交流会などの言語活動を設定し、学習意欲や目的意識を高めると共に、適切・正確な言葉を選んで表現する力を養う。 	<p>社会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○知識の定着を図るために、基本的な内容を繰り返し授業でとりあげる。 ○表やグラフ、地図を適切に読み取る力を身につけるために、見方や読み取り方を繰り返し確認する。 ○日頃のニュースを授業で取り上げ、興味を引き出す。
<p>数学</p> <ul style="list-style-type: none"> ○他の単元や、身近な生活との関連性に気をつけ、数学的活動や言語活動を取り入れた授業の展開を心がける。 ○コンピュータや模型などを活用し、関心意欲を高めるとともに、視覚的にも理解できるよう心がける。 ○T Tを活用し、個の学力に応じた指導助言の充実を図る。 	<p>理科</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実験観察を積極的に取り入れ、また、コンピュータや映像資料を活用し関心意欲を高める。 ○基本的な理論をしっかりと理解できるように、様々な事例を提示し、日常生活の体験と関連付けて展開していく。
<p>音楽</p> <ul style="list-style-type: none"> ○合唱や器楽、創作などの表現活動や様々な分野の音楽を鑑賞することを通して、仲間と共に感動体験を積み重ね、音楽を愛好する心情を育てる。 	<p>美術</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小中9年間を見通した魅力的な題材配列を考え、造形的な創造活動の基礎的能力を培い、表現の幅をひろげ、つくりだす喜びを味わわせ豊かな情操を養う。 ○美術文化に対する理解を深められるような題材設定の工夫をする。
<p>技術・家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実践的・体験的活動をより多く取り入れるとともに、自ら課題を見だし解決を図る問題解決的な学習をより一層充実させる。 	<p>外国語</p> <ul style="list-style-type: none"> ○英語によるコミュニケーション活動を取り入れAETとの会話などで実践的に活用する場面を多く設定する。 ○成功体験を増やすために必要な基礎の定着を図る。
<p>特別活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学年学級委員会の活動を通して、リーダーを育成する。 ○主体的に取り組む生徒会の育成を目指し、諸活動を通して生徒一人ひとりの主体的実践力を養う。 	<p>総合的な学習の時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ○福祉、人権、国際理解の面から社会を見つめる目を養う。 ○キャリア教育を進め、自分の将来について考えを深めるようにする。
<p>個別支援学級</p> <ul style="list-style-type: none"> ○様々な場面を通し、コミュニケーション能力の育成を図る。 ○個別の教育指導計画に基づき、将来の自立を見据えた授業内容と指導の充実を図る。 	<p>保健体育科は「体育健康プラン」に、道徳は「豊かな心の育成推進プラン」に記載。</p>

